



東京清掃労働組合  
 千代田区飯田橋3-9-3  
 TEL (3237) 9995  
 1部20円  
 編集責任者 長三 野崎 優  
 教宣部

わが組合の綱領  
 一、われわれは健全なる自主的組織を確立し、生活諸条件を確保し、社会的地位の向上を期す。  
 二、われわれは労働の社会的意義を顕揚し、都区政の徹底的民主化を期す。  
 三、われわれは労働者階級の解放と民主主義日本を建設し、世界平和に貢献せんことを期す。

第83回定期大会特集号

## 組織確立に向け活発に討論

9月28日(日)9時30分より、第83回定期大会が、文京区民センターで行われました。(一面2面に大会の概要)

大会は森田組織部長による「公共サービスとしての清掃事業の確立、組織確立に向けた重要な節目の大会である」とのあいさつから始まりました。

議長団には、品川支部の松本代議員、文京支部の松沢代議員が選出され、単組としての力量が問われる大会だ、実りある議論が交わされるようにと協力を呼びかけました。

## 安倍政権の進める政策は 全て戦争への道

冒頭、吉田中央執行委員長が「冒頭、吉田中央執行委員長があいさつに立ち、大雨による土砂災害等に被災した方々に対するお見舞いの気持ちを表しました。」

安倍政権の進める政策は全て戦争への道を開くため、1000人委員会等の取り組みを自治労都本部に結集する

ものは民で」と人員不足を非正規労働者の活用で事業展開しようとしています。

非正規労働者の課題を自らの課題とし、区民とともに清掃事業を確立し、清掃労働者全体の地位向上を目指す。

## 焦眉の課題は『給与制度の総合的見直し』との闘い

自治労都本部の宮本委員長は、「昨年は安倍政権による7・8%削減が全国に吹き荒れ、東京はこれを許すことなく闘い抜いた。今年『給与制度の総合的見直し』との闘いが焦眉の課題だ。アベノミクスに対抗し、格差是正、内需拡大、公共サービスを守る闘いをともに闘おうとあいさつしました。」

古川都市清掃副議長(大阪市従委員長)は、大阪に對する連帯への謝辞とともに



▲大会議長団の松本代議員と松沢代議員

いる。清掃事業の民営化に關しては、事業形態の変更をさせず、生活と雇用を守る闘いを有利に進めていく。」と報告しました。

特区連の佐藤書記長は、国の『給与制度の総合的見直し』が地域間の格差拡大や世代間の見直しが生涯賃金引下げとなり、若年層は大打撃である。国の影響を遮断する闘いを訴えること

## 2014年度一般経過報告

資格審査委員会委員長は、中野支部の斎藤代議員、大会運営委員会委員長は、足立支部の中村代議員を互選で選出しました。

# 区民とともに清掃事業を確立し、清掃労働者全体の地位向上を目指そう

もに、現業賃金では追い越しの生まれる切替調整措置を廃止しなくてはならないと話しました。

全労協の中岡事務局長は、「9月の内閣改造で入閣した19人の内15人が新憲法制定を求める議員である。日本を戦争のできる国にする内閣だ。新自由主義を広め非正規を拡大し、産業構造を転換し、公共サービスを破壊する内閣だ。財界と一体となり、官民で競争をさせ労働者の条件を下げている。ひとつひとつの闘いをつなぎ安倍と対決しよう」と呼びかけました。

退職者会の堀田会長は、「役員としての行動が非常に少なくなっている。区移管阻止闘争の時は自治省交渉もし、盛り上がった。全力を挙げて頑張った。全」と激励しました。

014年度一般経過報告が行われ、まず2013人事委員会報告及び確定闘争の報告をしました。新たな住居手当が創設され、原資を生かした経過措置を勝ち取りました。2014年春闘は今までになく積極的に取り組み、地連・支部合同決起集会、地連別春闘討論集を初めて取り組み、中執の春闘オルグも再開しました。現業系人事制度改善に



関する区からの追い上げも進めてきました。3月の本部による作業日の各区との確認、5月には正規職員採用の23区一斉申し入れも実施し、8月以降作業計画の基本的考え方に関する本部交渉を経て、現在各区での支部交渉が進められています。

### 経過報告・会計報告に対する各支部からの質疑・応答

昼食休憩後、経過報告に対する質疑・応答(4面以降参照)になりました。

●金部長は、隔年で賃金実態調査を行い、設問等も工夫し、100%の回答をめざすと回答しました。●会計監査報告の後、山崎財政部長による2014年度会計収支報告に移りました。●時間外の組合業務について 世田谷工場支部の山崎代

### 2015年度運動方針(案)各支部からの発言

●品川支部の高木代議員

は、2008年以來100人を超えた青年部は「青年らしい」運動を進めると発言しました。

●江戸川工場支部の中里代議員は、本部の力をもっと発揮し、23区の事業のあり方に対する本部の積極的な関与と組合内部の職種を超えた交流の組織化を訴えました。

### 組織財政方針について

●組織財政方針(案)では練馬支部の松永代議員は、区交渉を強め清掃事業を残すために政策研究をする専従を増やし、今使うべきお金を使って未来を切り開こうと発言しました。

●江東工場支部の内山代議員は、本部体制の見直しと合わせて一組総支部の見直しを行うとしました。●渋谷支部の成島代議員は、専従増員で財政支出がどうなるかシミュレーションを示すべきだ。貴重な組合費を使う以上、結果が求められると発言しました。

●一組本庁支部の岩田代議員は、単組東京清掃労組の15年を総括しよう。大義を掲げて住民とともに闘おう。専従増員ばかりでなく、無給職免の活用を訴えました。

●足立支部の中村代議員は、専従はもっと内部に目を向けて力を注ぐべき、獲得目標を明確にしないとこの組織財政方針には賛同できないとしました。

●世田谷工場支部の山崎代議員は、犠救を背景に闘いを進め、自前の城として清掃会館も獲得した。委託に抗してこの組織方針で闘おう。

●中野支部斎藤代議員は、体制強化の提案をする際に、広く意見を求めて、各支部に説明に入ろう。

●墨田支部の長妻代議員は、いざというときに財政はいる。しかし闘う者が残っていないならば、若手が安心して働ける環境を作るための闘う方針を立てよう。

●江戸川工場支部の中里代議員は、臨時大会までの十分な議論を求めました。本部体制が変わり、仕事も、組合もやる。組合活動の幅が広がる。健康状態への配慮、家族の理解が必要だ。細かい点を語れないといけない。臨時大会で必要な規約や規定を変更する。

●江戸川支部の島田代議員は、今後の具体的方針が出ないことには賛成できない。専従の人数と財政上の細かな情報が提示されることを希望すると、臨時大会までの詳細なスケジュールを示してほしい。

●本部の執行体制を7専門部から3局に組織財政方針に関わって、多くの代議員から発言が来ました。

### 良質の公共サービスとしての清掃事業を守る方針に関して

●江戸川工場支部の中里代議員が、様々な組織や事情を持つ関連労働者に才力を持ってもらうと提起した。2015年度組合費と会計予算も全員で確認しました。●特別中央執行委員・統制委員・中央委員・中央委員代理の承認後、大会宣言等を確認し、吉田中央執行委員長の団結カンパニーで、今後の闘う決意を固めました。

### 第83回定期大会

### ご来賓のみなさん



▲特区連 佐藤書記長



▲都市清掃 古川副議長



▲自治労都本部 宮本委員長



▲退職者会 堀田会長



▲全労協 中岡事務局長

